

「共に笑顔になる未来を目指して」

もともと介護保険事業所の介護支援専門員の仕事していました。介護支援専門員の仕事をしていて障がいに関しての悩みが多く聞こえてきました。障がいのある方の相談員が不足しているという話も聞いたので少しでも力になればという思いから、令和7年1月より障がい児・者の相談支援事業を開所しました。相談員2名体制で業務を行っています。

当然ながら介護支援専門員の時の業務と違うため、戸惑いながらも行政や他相談支援事業所に相談しながら取り組んでい

ます。障がい福祉サービスと介護保険との違いについては、毎月会わないことはまず大きな違いだと思います。毎月会うと本人と話す機会も多くなるため、その人のことをよく知っていくことができるのですが、障がいの相談員は3ヶ月に1回もしくは半年に1回で、本人とお会いする機会が極端に少なく感じました。また、介護保険では介護支援専門員に全て情報が集まっていたましたが、障がい児・者相談支援においては各事業所同士がやりとりをして本人のサポートをしていくことは今までにない感覚でした。

制度の違いはありますが、「高齢者だから」だとか「障がい者だから」だとか区別をして支援したくはないという思いはあります。その人個人をしっかりとして考えて方や価値観などを注意深く聞きながら、理解したうえで支援できたらと思っています。また、本人が笑顔になるための支援をしていきたいと思っていて、本人が実現したい未来に向けて一緒に歩んでいきたいです。



『顔を見て話をする』当たり前を大切に



この仕事をしていて改めて思うのが、本人及びご家族、支援者も含めみんな「一生懸命だな」と感じています。その人の成長を目の当たりにできることにこの仕事の楽しさです。ときどきしか会えないため、名前を覚えてもらうととてもうれしい気持ちになります。相談員として基本的には対面で話をすることを大切にしており、電話やメールは要件を伝えるだけならとても便利ですが、対面で話すことで表情が見えたり違う話

が出てきたりと、電話やメールでは得られないことがあります。

マーベラスは放課後等デイサービス、就労継続支援A型、訪問看護など様々な事業があり、利用されている方については情報共有がしやすい環境で包括的にサポートができると思います。また、その体制があることで家族も安心してもらえるのではないかと思います。

最近の出来事ですが、ある児童が親を気遣い、親は子を気遣い本人が言いたいことを言えていない状況がわかり、親子の関係性においてサポートして、児童の気持ちと親の気持ちが重なり合った場面を目の当たりにすることができ、相談員としてとてもうれしかったです。どうしたらよいかわからないケースもあり、日々悩みながら相談支援の業務にあたっていますが、本人や家族と対面で話をしながらその人との関係性を構築し、顔が見える関係で仕事をしていきたいと思っています。

